

2022年度 自己評価結果表

釧路キリスト教学園 釧路めぐみ幼稚園

1、 本園の教育目標

神様の愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。

神様が愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神様のかたちに造られた私たちの中には神様の限りない愛がこめられています。その神様の愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。

また、互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神様の愛のもとで先生や友達と喜びを共に体験し、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にする、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

4つのめあて

- ① たくましい心身と生きる力を培う。
- ② ひとりひとりを大切にし自主的な子どもを育む。
- ③ 恵まれた自然環境を通して、創造性と感性を豊かにする。
- ④ 神様の愛に気づき、共に生きる喜びを体験する。

教育目標・教育方針

- ◎今年度は、当幼稚園に入って、1年～2年目の教師が約半数だったことから教育目標の理解やそれを実際の保育におろしていくという作業に対して、極端にバラつきがあり、自己評価の結果を平均してみると、例年より低くなってしまった。しかし一方では、キリスト教を理解するために、週毎の礼拝出席率は高く、その努力はおおいに評価できる。
- ◎指導案（月案、週案、日案など）を立て、又、自分の保育を日々反省、それを次に生かそうとする姿勢などを保育日誌に記録し、それを毎週、園長・主幹が目を通すこと（これは例年行っていることであるが）で、各学年、各クラスの保育内容がよく見えるようになった。特に今年はシフトの中で短い時間ではあるが、日誌を記入する時間を作ったことで、教師達はその日の保育を振り返ったり、他の教師と保育に関して話す時間となり、クラス日誌がより充実してきた結果である。
ただ、保育日誌の書き方や、自分の保育の評価の仕方など、十分に指導・アドバイスができれば、もう少しきめの細かい保育へと繋がったのでは、と園長・主幹の反省である。

保育への取り組み

- ◎今年度も、コロナ感染の防止に取り組む中、行事の中止やクラス閉鎖など、いつもと異なる状況にありながらも、子ども達の健康への気配り、又、教師が互いに助け合い、力を合わせる等、主幹・主任を中心にその時その時の対応には、目を見張るものがあつた。教師間の連携が強まったと感じる。
- ◎幼児教育者のプロとしての自覚が育ってきており、又そのことを誇りとし、さらに成長しようとする意識が見られる。

自己の課題・重点目標

- ◎自分の苦手としている保育技術には、消極的なところが見られるが、そのことを意識して苦手意識をクリアしていく。
- ◎苦手なものよりも、自分の得意分野に目を向け、自信を持って保育を行う、又は教師間で生かしていく。

研修と研究

- ◎今年度は年間を通して、「発達支援児への対応」の研修を受けてきた。オンデマンド（動画視聴）への研修だったが、一つ一つの講義が充実しており、その研修を園内で2グループに分かれて協議会を行うことでさらに深め共有することができた。
- ◎研修で得たものは、実践しようと、早速ドキュメンテーションを開始し玄関や行事の際に掲示した。

保護者との関わり

- ◎クラスや預かり保育などであったことなど子どもに関わることは、毎日の打ち合わせなどで報告し、又、保護者との対応も報告し共有している。
- ◎保護者に対しては、信頼関係を大切にし、教師として節度あるマナーで接し、誠意をもって対応していることがよく分かる。

地域との自然や社会との関わり

- ◎今年度はテーマが「自然～自然を大切にしよう～」ということから、例年よりは意識が高まり、園外への散歩も回数が増え、自然に触れたり拾ったりして、保育に取り入れてきたように思う。又、理事長先生製作の「巨大石モザイクアート」（園庭）から刺激を受け、年長組の卒園製作として「石のモザイクアート」を完成させたことは大きい。
- ◎SDGsについては、奥が深すぎて、どのように幼児に伝え取り組んでいくかまだまだ課題が大きいですが、身近なところから実践していく中で見えてくるものがあると、各教師がアンテナをはりめぐらして、模索中。
- ◎ロシアによるウクライナ戦争、トルコの大地震、鳥インフルエンザによる卵不足など、世界で起こっていることは、自分達と無関係ではなく、生活に影響していることを教師達がまずそのことに敏感になり、資料を持ち寄り、子ども達に働きかけることを心掛けてきた。又、クリスマス献金、年度終わりの献金使途はユニセフを通してウクライナへの寄付としたこともその一つである。

組織運営

- ◎今年度は教職員の異動が多い1年だった。新採用（パートを含む）が12名あり、退職者8名という実情は驚きである。ただ、そういう状況でも教職員が互いに補い合いながら、保育の質を落とさないように努力してきたことは評価できる。
- ◎今年度は大幅に処遇改善をしたが、財務運営は良好であり、感謝である。

2023年度への目標

- ◎2023年度に新キリスト教保育指針が出る（or 発行される）予定であることから、学びを深め教育目標をもう一度吟味し、カリキュラムにしっかりつなげていきたい。そして、国が示す10の幼児の姿と共に当園が目指す幼児の姿を教師間で共有する。
- ◎次年度のテーマは教職員で方向を考え、後は子ども達と話し合い、深めていく。
- ◎昨年に引き続き、発達支援児への対応と保護者への配慮をさらにレベルアップするためにアクションを起こす。
- ◎新年度は副園長、会計事務が新しくなり、主幹を2名置くなど新しい体制をとることとなった。コロナもインフルエンザと変わらない扱いになり、マスク着用も緩和される。中止してきた行事の復活や見直しなど新しく園のスタートにしたい。それには、ダイナミックかつ緻密な保育・幼児教育を展開する。

学校関係者評価委員会実施報告

委員会…年3回

1. 2022年6月24日（金）
園内研修に参加。公開保育を参観後、午後協議会
2. 2022年10月26日（水）
「めぐみーらんど」（自然館～自然を大切にしよう～）を参観後、話し合う
3. 2023年3月7日（火）
3月お誕生会を参観後、2022年度の教師の自己評価を基に話し合い、委員会としての評価をまとめる

めぐみ幼稚園では、保護者・地域住民・評議委員により構成される、学校関係者評価委員会を設置しています。

学校関係者評価の実施においては、評価に先立ち、保育参観、意見交換などにより園の状況について共通理解を深めています。

本年度の自己評価の結果、およびそれを踏まえた今後の改善策についての評価が学校関係者評価委員会により実施されました。

学校関係者評価委員会2022年度評価

- ◎今年度もコロナウイルス感染予防のため、休園や学級閉鎖を余儀なくされ、行事も中止や工夫して行われてきたとのこと。そういう中で、保育・教育の質を落とさず、又、環境の取り組みにも時間をかけていることが一年を通して伺えた。それは人環境も同じで、委員に対しても、外部からの来園者に対しても教師達の気持ちの良い挨拶や対応があり、園児達も教師達に真似て元気よく挨拶する姿があり、好ましく感じた。聞くところによるとそうしたことで、見学者の方が当園を選ぶきっかけになったとのこと、頷けるものがある。
- ◎園からの報告の中で、今年度は12名採用、8名の退職者とあり、退職の理由は個々異なると思うが、目まぐるしく変わる人事だったにも拘わらず、園長・主幹・主任を中心に、毎日教師の打ち合わせを行うことで、園全体の動向を共有し、互いに補って対応にあたることができたようだ。
- ◎今年度のテーマ「自然～自然を大切にしよう～」は身近なテーマであり、例年より意識が高まった。又、園庭に理事長らによる巨大な「石のモザイクアート」が完成され（約2か月間）、当園のテーマは年間を通してそれぞれの学年に応じて深めていくことから、保育や幼児教育に良い刺激となり、取り組みが広がっていくのが分かる。
- ◎今年度は発達支援児への対応・配慮など、年間を通しての研修を受けたり、療育施設のアドバイスを頂いたりなど、力を入れてきたことが伺える。又、実際に参観でも子ども同士の関わりの中に、微笑ましい姿を見ることが出来た。今後もさらに期待したい。
- ◎幼児教育を終えて、小学校に進学するにあたって、その引き継ぎのあり方を、小学校との連携を深めて意味のあるものになってほしい。又、卒園しても自分達の原点である「幼稚園」に来ることが出来るようなイベント（同窓会のような？）が一年に一回あると良い。